

令和6年2月定例会

四王寺山のワンヘルスの森、そして古代山城の大野城跡、さらには同時期に造営された水城跡の整備について足並みを揃えて取り組みについて伺います。



壇上にて一般質問

質問1 「ワンヘルスの森 四王寺」の集客について(林業振興課)

服部 誠太郎知事答弁

◎豊かな自然が広がり、多様な動植物が生息する「ワンヘルスの森 四王寺」は、自然を五感で楽しみながら、健康づくりや生物多様性の学習など、ワンヘルスを実践できる格好の森林公園である。

◎県では、より多くの皆様に、自然の中でワンヘルスを実感していただくため、森林浴の体験ツアーを実施しており、その際には、ワンヘルスの説明や森の案内ができるガイドを派遣しているところである。

また、昨年秋季には、この体験ツアーと併せて、紅葉を楽しむライトアップイベントを初めて開催し、参加者から大変好評をいただいている。

令和6年6月定例会

質問1 市町村における広域連携の推進について(行財政支援課)

服部 誠太郎知事答弁

◎市町村が質の高い住民サービスを持続的に提供していくためには、各市町村の強みを活かし、情報や人材を共有・融通し合う、広域連携の取組が有効であると考えている。

◎この連携を進めるに当たっては、地域の利害調整が難航し、合意形成が難しい場合もある。このため、県では、地域の実情に応じた連携が進むよう、連携の相手方、方法についての助言や調整を行ってきた。

◎具体的には、業務システムの共同調達等を行う「ふくおか電子自治体共同運営協議会」において、事務局である県の働きかけや調整により、参加市町村や提供サービスの増加が図られている。

また、水道施設については、県が昨年3月に策定した「水道広域化推進プラン」に基づく協議が進められた結果、先月、北九州市、行橋市、苅田町において、一部施設の共同利用についての合意がなされたところである。

◎さらに、複数の交通手段を最適に組み合わせ、検索・予約・決済を一括で行う「Maas」については、県が関係市町村との調整を行い、昨年度、日田彦山線BRT沿線や有明圏域において実証実験を開始した。

こうした取組により、昨年の来訪者数は、約27万6千人と、前年に比べ、2万4千人ほど増加したところである。

◎さらに、春の新緑、秋の紅葉といった、季節ごとの四王寺の魅力を伝える動画を作成しているところであり、今後、これを活用し、旅行代理店向けの商談会やSNSを通じて、誘客に向けたPRを行うこととしている。

◎県としては、こうした取組を通じ、より多くの方に「ワンヘルスの森 四王寺」にお越しいただき、ワンヘルスの理念を広めていく。

質問2 大野城跡の保存活用計画の策定について(文化財保護課)

吉田 法穂教育長答弁

◎保存活用計画は、管理団体や所有者が保存・活用を進めていく上での方針や日常管理、整備などについて文化財ごとに定めるものである。

大野城跡においても、適切な保存を行うとともに、ワンヘルスの森との事業連携など、史跡地の有効な活用を図っていく上で、計画を策定することは重要であると考えている。

◎この大野城跡は、大野城市・太宰府市・宇美町にまたがる広域な史跡であるため、計画の策定に向け、関係市町や文化庁、専門家と協議していく。

質問3 水城跡の振興策について(文化財保護課)

吉田 法穂教育長答弁

◎水城跡の一体的な動線を確保することは、他の史跡や市街地からの移動を容易にし、JRも拡大することとしている。

◎このように、今後も県が主導的な役割を担って、市町村間の各分野における連携が一層進むよう取り組んでいく。

質問2 専門人材確保に向けた県の補完・支援について(行財政支援課)

服部 誠太郎知事答弁

◎市町村単独、あるいは広域連携による専門人材の確保が困難な場合には、広域自治体である県が市町村を補完する機能を担い、支援していくことが必要であると考えている。

◎このため、デジタル化に取り組む市町村へのDX(デジタルトランスフォーメーション)の専門家派遣、医師不足が深刻なへき地等の公的医療機関への医師派遣などの支援を行っている。

また、本来、市町村が徴収すべき個人住民税について、県職員が滞納整理を行い、直接徴収する事務代行の取組なども行っている。

◎これらの取組内容については、毎年、最新情報をとりまとめ県内市町村に提供し、積極的な活用を働きかけているところである。

◎今後とも、市町村が質の高い行政サービスを安定して提供できるよう、専門的知識や高度な技術を要する分野を中心に人材派遣等に積極的に取り組む、市町村を補完・支援していく。

質問3 市町村の課題把握や先進事例の横展開について(政策支援課)

水城駅周辺の史跡地の活用に資するものと考えている。

◎このため、水城跡整備事業推進協議会において、保存と活用の観点から適切な動線の在り方を検討する中で、整備関係部局とも連携していく。

ワンヘルスの森

ワンヘルスの理念を実感できる場として、県立四王寺県民の森を「ワンヘルスの森 四王寺」として整備

- ◎ ワンヘルスの森ミュージアム
木の香りに包まれた心地よい空間で、森に生息する動物や四季折々の植物のほか、森林浴の効能などについて学ぶことができる
- ◎ 解説版の設置
ワンヘルスの説明や森林浴のコースマップ、見どころを紹介(多言語表記)
- ◎ ワンヘルスガイドの育成
ワンヘルスの説明や「ワンヘルスの森」を案内できるガイドを育成

ワンヘルスコンセプト編

四王寺山 ウォーキング編

◎県では、市町村振興局を設置し、局長、課長、地域政策監が地域に頻繁に足を運び、市町村長の声を直接聞かせていただくなど、市町村が抱える課題の把握に努めている。

また、昨年度から、副市町村長出席の下で開催している「地方創生市町村圏域会議」において、あらかじめ市町村から提案された議題に関わる県の担当課も参加し、それぞれの圏域が抱える課題の把握も丁寧に行っているところである。

◎こうした中、例えば、地域公共交通における広域連携のあり方や、移住・定住施策を推進するための情報発信などの課題が市町村から示され、県と市町村が一緒になって、今後取り組むべき施策の協議を行ってきた。

◎また、圏域会議や庁内関係部局が主催する各種会議の場などを通じて、AIオンデマンド交通の導入や廃校を拠点としたまちづくり協議会の活動など、市町村における行政サービスの先進事例について、積極的な情報提供を行い、地域の実情に応じた施策の横展開を促しているところである。

◎少子高齢化・人口減少の進行やインフラの老朽化等が深刻化する中、市町村が持続可能な形で行政サービスを提供し、住民の暮らしを支えていくためには、市町村間の広域連携や県による補完・支援など、多様な手法の中から、最も適したものを市町村自らが選択していただくことが必要となる。

県としては、市町村の自主性・自立性を尊重した上で、適切な助言や調整、支援の役割を一層きめ細かく果たしていく。